

論文内容要旨

論文題目

幼保施設の子どもの家族における災害時引き取り対応力事前チェックシートの開発

教育・研究領域：生涯生活支援看護学領域

氏 名：橋浦 里実

【内容要旨】（400 字以内）

本研究は、幼保施設の子どもの家族における災害時引き取り対応力事前チェックシートを開発し、その信頼性・妥当性を検証することを目的とした。

これまで実施した予備調査の具体例や先行研究などを参考に、36 項目からなる幼保施設の子どもの家族における災害時引き取り対応力事前チェックシートを開発し、信頼性と妥当性を検証した。その結果、幼保施設の子どもの家族における災害時引き取り対応力事前チェックシートは、5 因子 20 項目から構成された。第 1 因子から第 5 因子までの Cronbach's α 係数は 0.70 以上、20 項目全体の α 係数は 0.89 であり、信頼性と構成概念妥当性を確認した。また、災害自己効力感尺度や防災意識尺度との相関が認められたことから、基準関連妥当性を確認した。

以上のことから、幼保施設の子どもの家族における災害時引き取り対応力事前チェックシートの信頼性・妥当性が検証された。

令和 4 年 12 月 26 日

山形大学大学院医学系研究科長 殿

学 位 論 文 審 査 結 果 報 告 書

申請者氏名： 橋浦 里実

論文題目： 幼保施設の子どもの家族における災害時引き取り対応力事前チェックシートの
開発

審査委員：主審査委員 片岡ひとみ

印

副審査委員 森鍵 祐子

印

副審査委員 佐藤 幸子

印

審査終了日：令和 4 年 12 月 20 日

【 論 文 審 査 結 果 要 旨 】

様々な災害が起こり得る中、平常時に、自ら災害対策ができない乳幼児の災害対策を検討することは重要である。幼稚園・保育所・認定こども園（以下、幼保施設）においては、幼保施設職員が子どもたちの生命の安全を守った上で、家族が安全に子どもを引き取ること、幼保施設が安全に子どもを引き渡すことは重要な課題である。本研究の目的は、幼保施設の子どもの家族における災害時引き取り対応力事前チェックシートを開発し、その信頼性・妥当性を検証することである。対象は施設長から同意が得られた 33 幼保施設の子どもの家族 1,625 人である。調査は無記名自記式質問紙もしくは Web で実施し、得られたデータの項目分析、探索的因子分析、確証的因子分析を行い、尺度の信頼性と妥当性を検証した。243 人から回答が得られ、その内有効回答は 201 人であった。分析の結果、『幼保施設で行われる災害訓練への参加』『幼保施設の災害対策への関心』『幼保施設の災害対策の理解』『家族の健康状態』『ソーシャルサポート』の 5 因子 20 項目が抽出され、20 項目全体の α 係数は 0.89、各因子の α 係数は 0.74～0.89 で内的一貫性を確認した。さらに、確証的因子分析の結果、モデル適合度指標は GFI=0.856、AGFI=0.811、CFI=0.935、RMSEA=0.07 で、適合度は概ね妥当であった。また、災害自己効力感尺度及び防災意識尺度との相関から、基準関連妥当性を確認した。以上から幼保施設の子どもの家族における災害時引き取り対応力事前チェックシートの構成概念は 5 因子 20 項目からなり、その信頼性と妥当性が確認された。本チェックシートを入園時、進級時や幼保施設の災害訓練時等、子どもが幼保施設を利用している期間中複数回活用することにより、家族の個別性に合わせた災害対策支援を検討する一助となると考えられる。

本研究について、論文および口頭発表に基づき審査した結果、研究の目的が明確で、方法も妥当であり、結果には新知見が含まれ考察も適切であることから、本研究は学位論文（博士）として相応しいものと評価した。